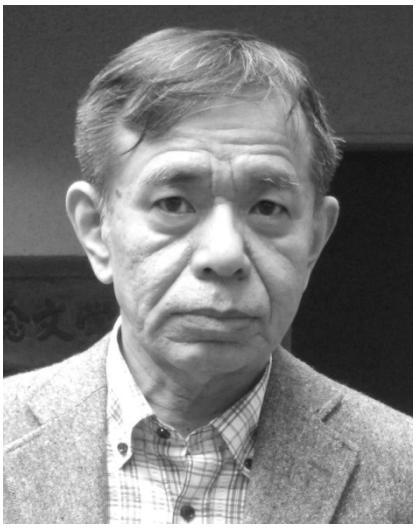
平成29年　ふるさと学級

則武三雄（のりたけ　かずお）を語り継ぐ

没後２７年、ますます声価を高める詩人、則武三雄（１９０９―１９９０）は、日本文学全体の風景とかかわる、清新な著作を数多く残し、福井の文学界の発展に貢献した。詩作、詩論、評伝、回想、編集、出版など、その広範な表現活動の意義を、新たな視点から見つめたい。　（荒川洋治）

荒川洋治氏（現代詩作家）が語る

則武三雄の詩と世界



平成２９年6月１８日（日）

１４時～１６時

開場　　１３時３０分

荒川洋治／1949年４月18日、福井県坂井市生まれ。則武三雄に師事。詩集『水駅』（第26回H氏賞）『渡世』（第28回高見順賞）『空中の茱萸』（第51回読売文学賞）『心理』（第13回萩原朔太郎賞）、エッセイ・評論集『忘れられる過去』（第20回講談社エッセイ賞）『文芸時評という感想』（第５回小林秀雄賞）など。2016年、評論集『過去をもつ人』（みすず書房）で、第70回毎日出版文化賞書評賞を受賞。2017年、詩集『北山十八間戸』（気争社）で、第８回鮎川信夫賞を受賞。
現在、川端康成賞、太宰治賞、中原中也賞などの選考委員。

会場：　円山公民館ホール

参加費：　無料

定員：　250名

申込み：　福井市円山公民館
（〒918-8212 福井市北今泉町 7-12）
【TEL/fax】0776-54-0048
【e-mail】enzan-k@mx1.fctv.ne.jp

主催：円山公民館・円山地区まちづくり協議会
共催：NPO 農と地域のふれあいネットワーク・福井県詩人懇話会・福井県ふるさと詩人クラブ
後援：福井県・福井県教育委員会・福井市教育委員会・福井新聞社・FBC 福井放送・福井テレビ
協力：福井県ふるさと文学館・福井県里山里海湖研究所

ふるさとの詩人　則武三雄

明治 42 年鳥取県米子市に生まれた。本名は則武一雄であるが、生涯の師と仰いだ三好達治の名前の一字をとって三雄と改めたと伝えられている。

19 歳の頃から 7 年間当時の朝鮮に渡り、そこで役所の嘱託として過ごした。その頃に発刊された「鴨緑江」は青春時代の代表作である。

昭和 20 年の終戦で、故郷の米子市に戻ったが、当時の福井県三国町雄島村に疎開していた詩人三好達治の誘いを受け、三国を訪れた。翌年の昭和 21 年 2 月以降、福井の地に留まり、福井人としての生涯を送ることになった。

昭和 25 年に、福井県立図書館の職員となり、福井市の江戸上町、現在の宝永 3 丁目に転居した。翌年の昭和 26 年に福井の文学の拠点と言うべき「北荘（ほくそう）文庫」を創設し、本格的な出版活動を始めた。「北荘文庫」は「則武学校」とも呼ばれた。

北四ツ居町に転居したのは、昭和 31 年であった。昭和 39 年に県立図書館を定年退職し、福井工業大学附属図書館の職員となった。この年絶賛を浴びた「紙の本」が刊行された。則武三雄を生涯の師とした詩人広部英一氏は、「紙の本」には深く越前和紙を愛する則武さんの美意識が根底に流れていると言っている。また、則武三雄を師と仰いだ荒川洋治氏は「異邦人」人生が詩を個性的なものにしたと語っている。この年、福井県文化賞を受賞した。昭和 61 年に文部大臣表彰を受けた。30 数年間を過ごした北四ツ居町では、散歩はいつも下駄履きで、「下駄のおんちゃん」と親しまれ、着物の懐には常に紙に巻いた筆と硯を持ち歩き、頼まれれば直ぐに作品を書くのが常であった。

大東中学校の校歌は則武三雄の作である。伸びやかな文字で書かれた直筆の大東中学校の校歌が、円山公民館の「則武三雄記念文学コーナー」に掲げられている。作曲は高田三郎であった。

則武文学の出発点となった三国では、毎年 4 月 29 日の「みどりの日」に地元有志による則武三雄記念祭が行われている。在りし日の則武三雄氏を偲ぶ人たちの心の中に、詩人則武三雄は今も健在である。

「円山地区の昔と今」平成 19 年発行より抜粋